



# 佐賀大学教職大学院 院生ライフレポート



2020年  
9月号

教職大学院には、諸機関での実習があります。具体的には、教職大学院 1年次（M1）は、ストレートマスターには基盤教育実習、現職教員には異校種教育実習または関係機関実習が設けられています。2年次（M2）には、学校課題探究実習、学校変革試行実習があります。

この号では、M1の異校種教育実習及び関係機関実習について、「授業実践探究コース」「子ども支援探究コース」「教育経営探究コース」別に、事前準備の様子や、実習の感想を紹介します。



実習計画発表会の様子

## 《授業実践探究コース》

自分の考えている研究の視点は、授業においてどうすることなのか、子どもがどうなることなのか、実践にむけ具体的に考えることができた実習でした。それだけでなく、大事なことに気づく機会を頂きました。中学校の授業では、今まで小学校現場で使ってきた言葉かけ、指示や活動時間といった細やかなことが、微妙に違います。教科内容は、専門的で量も増えています。いかに、生徒に関心を持たせ、その関心を持続させながら学ぶように導くのか、中学校の先生方の言葉かけや授業構成を参観し、少しでも多く学び取りたい気持ちでいっぱいでした。学びとれたかはわかりませんが、言葉かけや授業のテンポを以前よりも慎重に、より深く考えるようになりました。成長する子どもが相手の教師にとって、当たり前だと思っているものをもう一度問い直すことは、経歴が長くなるほど大事なことで改めて思います。（現職）

## 《子ども支援探究コース》

実習期間は20日間、立場や系統によって実習場所は異なり、ストマスは各校種の学校での実習です。どちらかというと理論に関する学びが主だった学部時代の実習とは異なり、現場で指導する先生方の姿や生徒との関わりから貴重な学びを得ています。今後はさらに深い生徒理解に努め、理論をどう実践に活かせるか研究していきたいです。（ストマス）

現職のうち、生徒指導・教育相談系学生は児童相談所と適応指導教室で、特別支援教育系学生は勤務校でない特別支援学校で実習を行いました。どの実習先においても普段経験することのできないことを勉強させていただき貴重な20日間となっています！子どもに寄り添った支援とは何かを改めて考えさせられる実習です。（現職）

## 《教育経営探究コース》

コロナ禍で自宅での自粛生活を余儀なくされていたため、緊張もしましたが、外で人と接することができ充実した日々を過ごしました。自粛生活でストレスが結構溜まっていたのだと改めて実感しました。

市の教育委員会と県の教育委員会にお世話になりました。市の教育委員会は現場の先生方を本当に間近で支援されており、私も市内の小中学校訪問に毎日同行させて頂きました。市の教育が、教育委員会に支えられているのを実感した2週間でした。県の教育委員会では、学校評価、コミュニティ・スクール、教職員の研修など、前期の授業で学んだ教育政策が、行政機関で実際にどのように企画・立案されているのかを学ぶことができました。（現職）